

臨床研究に関する情報公開

＜人を対象とする医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p>＜研究課題名＞ 「大動脈石灰化病変と粥状動脈硬化の関係；血流維持型大動脈内視鏡による検討」</p>
<p>＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部附属板橋病院 循環器内科（研究責任者）小嶋 啓介</p>
<p>＜研究期間＞ 承認日 ～ 西暦 2023 年 3 月 31 日</p>
<p>＜研究の目的と意義＞</p> <p>血管壁の石灰化病変は、動脈硬化の一つの状態です。石灰化病変は単純 CT 撮像により、容易に検出することができるため、しばしば動脈硬化疾患によるリスクを評価ための指標として使用されており、高度な石灰化を認めると心血管疾患のリスクが高いことが報告されています。</p> <p>しかしながら大動脈の石灰化病変が心血管イベントに関連する原理はまだ十分に研究されておりません。最近血管内視鏡による大動脈壁の観察方法が一般化され、従来の画像診断機器と比較して解像度が高く、大動脈局所の動脈硬化を生体内で評価することが容易となりました。</p> <p>今回我々は CT による大動脈の石灰化量や分布と、血管内視鏡で観察された血管表面の動脈硬化病変を比較することで、高度な石灰化を有する症例で心血管イベントを発症する機序を検討します。本研究によって大動脈の動脈硬化による全身の心血管疾患発生に関わる一因が明らかになる可能性があります。またカテーテルを用いた侵襲的な観察方法である血管内視鏡所見を受けずとも、CT 検査による石灰化の程度でより詳細な動脈硬化病変を推定できるようになる可能性があります。</p>
<p>＜利用する試料・情報の項目＞ 病歴などの診療記録、血液検査所見、冠動脈造影検査所見、大動脈内視鏡所見、胸腹骨盤 CT 所見などの情報を電子カルテから収集します。</p>
<p>＜対象となる患者さん＞ 2014 年 12 月から 2020 年 8 月までに日本大学医学部附属板橋病院循環器内科にて冠動脈造影を施行した心血管疾患患者のうち、大動脈内視鏡検査を施行しかつ胸腹骨盤 CT を撮像している方が対象となります。</p>
<p>＜研究の方法＞大動脈内視鏡検査から得られた動脈硬化所見と、胸腹骨盤 CT から抽出した石灰化量を比較検討します。</p>
<p>＜お問い合わせ窓口＞ 日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1） 循環器内科 氏名：小嶋 啓介 電話：03-3972-8111 内線：(医局)2412 (PHS)8697</p>